

# 国際戦略経営研究学会

*The International Academy of Strategic Management*

NEWSLETTER VOL. 3.No1

2014/1/24

(内容)



- 1 会長新年ご挨拶
- 2 国際戦略経営研究学会第7回年次大会・研究発表大会のご案内
- 3 第6回年次大会・研究発表大会のご報告
- 4 学会誌の原稿募集(『JSMS、『戦略経営ジャーナル』』)
- 5 事務局からのお知らせ

## 1. 会長新年ご挨拶

新年のご挨拶

会長 高橋宏幸

明けましておめでとうございます。

清々しい元旦を迎えることができ、会員の皆様に新年のご挨拶を申し上げます。いよいよ本学会も今月をもちまして設立6年目となります。

日本学術会議協力学術団体と指定されている学会は全国におよそ1,600団体あります。国際戦略経営研究学会もそうした団体の一つですが、学術研究の向上発達と日本企業の競争力向上のため、これまで数々の試みを行ってまいりました。その一つが戦略的グローバル人材の育成・開発に向けた「英語による研究会」の設置です。さらに大会や研究部会での報告・提言などの発表機会の場として、英文ジャーナルや電子ジャーナルが用意されております。昨年開催された新潟大学での全国大会でも、報告者、質問者ともに英語によるセッションが設けられ、大盛況という成果が得られました。

今年は「午年」で、「馬」にちなんだ迷信も数多くあります。丙午に女の子の出産が異常に減少したのはそれほど昔の話でもありません。お隣の中国では迷信ではなく国策として一人っ子政策がとられ、その結果女性の人口比率が大幅に落ち込みました。いずれも間違った考え方の結果、社会に負の結果をもたらすことになりました。ビジネス界そしてビジネス教育にも同じようなことが言えます。戦略を理解しない経営者は、もはやグローバル化の進展した今日の時代において、経営者たる資格を失っています。ビジネス教育もそうです。戦略の重要性は教育・研究の場で、ますますその重要性を高めてきております。

この戦略を中心とした本学会の責任は言うまでもありません。その責任を果たす上でも、今年は学会員の増大と全国的な学会員の広がりに最大の努力を払っていきたいと考えております。どうぞこの点をご理解の上、ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

あらためて、会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

2014年元旦

## 2. 国際戦略経営研究学会第7回年次大会・研究発表大会のご案内

本年度の第7回全国大会の日程、統一テーマ等が下記の通り決定致しましたので、お知らせ申し上げます。下記の要領で開催予定ですので、積極的にご参加くださいますようお願い申し上げます。

大会組織委員会委員長 河合忠彦

### 2.1. 開催校と開催日

- ・開催校：中央大学ビジネススクール（文京区春日）
- ・開催日：2014年9月13日（金）、14日（土）  
(もしくは9月14日（土）、15日（日）、3月に確定)

### 2.2. 統一テーマ

大会プログラムは未定ですが、研究発表は統一テーマに関するものと自由論題による発表の2タイプから構成されます。発表内容は、戦略経営に関するものであれば、実証研究、事例研究、分析フレームワークの提案などのいずれでも可能です。

統一テーマは、次のように決定致しました。

“New Global Challenge for the Japanese Businesses

: Burgeoning issues and the new approaches of strategic management”

様々な政策により日本経済の再生への足がかりが出来つつあるようですが、それを現実のものにするためには、日本企業のグローバル化への新たなチャレンジが要請されています。そのチャレンジとは、1つには、かつてのグローバル化の成功後の“失われた20年”で大きく損なわれたグローバルプレゼンスを回復するという、いわば量的な意味での“再”チャレンジを意味します。

しかし、より重要なのは、ニューチャレンジとは、それに加えて、“質的に新たな”チャレンジを意味することです。かつての国際化（=初期のグローバル化？）は、唯一の経済大国たるアメリカ主導の国際市場システムに組み込まれ、その中で相対的にポジションを高めてゆけば良いという単純なものでした。事実、日本企業に必要だったのは、唯一の競争相手であるアメリカ企業よりも良いものをより安く作ることであり、理論的にも「モノづくり論」があれば足りる時代でした。

これに対して今日要請されているグローバル化とは、政治経済体制、発展段階、

文化、人種などを異にする諸国の企業が（政府も加わって）争う、より多極的で複雑化した環境のなかで、競争優位性を獲得・維持し、より高めていこうというはるかに困難な闘いです。そこで競争は、多くの多様な競争相手に対するものであるため、未経験の様々の問題の発生が予想され、その解決のためには、企業戦略、競争戦略は言うに及ばず、研究開発、生産、販売、人的資源開発などの機能別戦略のダイナミックでタイムリーな展開（転換）とその実現のための資源の再構築が求められています。

そして注意すべきは、これはもはや既存の「モノづくり論」で対応できる課題ではなく、まさに本学会が主張する「戦略経営論」による対応が要請されるものだということです。次期大会の統一テーマとは、この意味での新しいグローバル化へのチャレンジを狙いとするものに他なりません。（逆に言えば、かつてのグローバル化とは、「戦略経営」を「モノづくり」に還元、単純化できた幸せな時代におけるそれだったと言って良いでしょう。新しいグローバル化でも「モノづくり」は重要ですが、それは、戦略経営の一部分たる“戦略的”モノづくりでなくてはなりません。）

ところで、そのようなニュー・グローバルチャレンジの中でも特に重要な位置を占めているのが、上述のような環境の典型たる新興国市場であり、そこで global giants や emerging giants との熾烈な競争を生き抜いて新次元の成長を実現するためには、迅速かつタイムリーでの的確な戦略（転換）と資源の再構築が求められています。

以上が統一テーマの趣旨ですが、その実現のための具体的な課題としては、たとえば、次のようなものが考えられます。

- How to develop sustainable global corporate or business strategies
- How to develop sustainable global functional strategies
- How to develop business or functional strategies in penetrating emerging markets

次期大会の目的は、これらの課題に対する分析方法ないし具体的な解決策の提案、あるいは事例分析などによって「戦略経営」の実践と研究に貢献し、ひいては日本経済の再生に貢献することであり、多くの会員諸氏の積極的な参加が期待されています。

ちなみに、本年12月にオーストラリアで開催されるSMS(Strategic Management Society)のSpecial Conferenceの統一テーマは“Strategic Management in the Asian Century – Dealing with Dynamism, Diversity and Development”であり、また、Diamond Harvard Business Reviewの本年2月号のテーマは「日本企業は新興国市場で勝てるか(How to win in emerging markets)」となっています。これらに負けぬ成果を出すべく頑張りましょう。

なお、グローバルチャレンジは企業のみならず、学会にも強く期待されるものであり、本学会も国際化を目指さなくてはなりません。昨年度の大会で初めて英語による発表を取り入れましたが、本年度もそれを継承拡大し、できるだけ早期に外国人が会員になりやすい体制を整備する1ステップにしたいと考えています。その意味で、多くの会員が英語による発表にチャレンジされることを期待しています。

### 2.3. 発表形態

- ・研究発表は、統一テーマに関するもの、自由論題に関するもののいずれについても、英語、日本語のいずれでも可能です。
- ・統一テーマについてのシンポジウムは英語のみで行い、そのメンバーは組織委員会が選任しますが、同テーマについての英語での応募者の中から選任されることもあります。

### 2.4. 募集要領

- 1) 申込み方法：「報告要旨」添付
- 2) 原稿の言語：英語での発表の場合は英文、日本語での発表の場合は和文
- 3) 申込み期限：2014年6月30日（月）必着

#### (留意点)

- ① 昨年までは、まず「発表申し込み」を行い、採択の決定後に（報告要旨集用の）「報告要旨」を提出する方式でしたが、報告要旨が提出されず、報告要旨集のその部分が白紙という事態が生じたこともあります。本年度は、発表申し込み時に「報告要旨」も提出して頂くことになりましたのでご注意ください。  
(規定通りに作成された「報告要旨」を伴わない申し込みは受け付けられません。)
- ② 「報告要旨」のスタイルの詳細については申込期限の2ヶ月前頃までに公表致しますが、ほぼ昨年までの方式を踏襲し、「A4(40行)で4枚以内(図表を含む)」となる予定です。

### **3. 第6回年次大会・研究発表大会のご報告**

国際戦略経営研究学会 第6回年次総会・研究発表大会は「戦略経営と人的資源管理」という統一論題のもとに、9月21日（土）と22日（日）の2日間、新潟大学 五十嵐キャンパス、駅南キャンパス・ときめいにて開催され、活発な討論が繰り広げられました。

年次総会・研究発表大会それぞれの内容は下記の通りです。

#### **3.1. 年次総会**

以下の議題について、9月21日開催の理事会の議を経て総会で審議し、いずれも承認されました。

##### **(1) 平成24年度事業報告および収支決算についての事項**

事業報告として以下の委員会の報告が行われ、収支決算について承認されました。

- ① 総務企画委員会活動
- ② 大会企画運営委員会活動
- ③ 渉外・国際委員会活動
- ④ 研究部会活動（開催回数）

- ・戦略経営理論・実践共催研究会（8回）
- ・戦略的資源・組織開発研究会（3回）
- ・グローバル戦略部会（2回）
- ・製品・サービス開発戦略研究会（1回）
- ・戦略財務・会計研究会（2回）
- ・関西（政策・戦略）研究部会（1回）

- ⑤ 学会誌編纂委員会活動

- ・JOURNAL OF STRATEGIC MANAGEMENT STUDIES（査読ジャーナル）の発行  
Vol. 4, No1, 2 を2013年6月に発行。Vol. 5, No1, 2 を2013年9月に発行予定  
・『戦略経営ジャーナル』（電子ジャーナル）Vol. 2 No1 を2012年12月に発行。  
Vol. 2 No2 を2013年7月に発行。

##### **(2) 監査報告についての事項**

学会会則第31条に従い、花枝英樹、鈴木研一監事の監査を受け、「決算報告書は収支支出の状況及び財産の有りを正しく示している」ことが報告されました。

##### **(3) 平成25年度事業計画および収支予算についての事項**

これまで通りの研究会活動、学会誌の発行を継続して行うことが確認されました。

(4) 会費の改訂

「付則 第2条」の改訂が承認されました。

準会員（大学院生）の会費を「5千円」に改訂

改訂の目的：学会の財政状態が十分でないため

(5) 監事の選任

次期監事として次の2名が推薦され承認されました。

白田 佳子 氏（筑波大学 教授）

田中 敏行 氏（国士館大学 教授）

(6) 会員数の現状について

正会員数 262名

準会員数 72名

合計 334名

(7) 来年度の全国大会開催について

来年度の年次大会の開催校については調整中である旨ご報告がありました。

(8) 理事選挙について

「役員選任規定 第12条」に従って選挙管理委員が選出され、選挙管理委員のもと理事選挙が実施されました。新理事に選出された方々は以下の通りです（順不同）。

井原久光 井上善海 石川伊吹 牛丸元 薄上二郎 大野富彦 大島正克

長内厚 北島啓嗣 桑山三恵子 桑名義晴 近藤信一 咲川孝 佐野享子

高橋浩 高橋宏幸 高橋義仁 玉木欽也 中村潤 永島暢太郎 西尾弘一

平松庸一 古屋紀人 室勝弘 Remy Magnier-Watanabe （以上25名）

(9) 会長、常任理事の選出

大会2日目の9月22日に開催された新理事による第1回の理事会において、

「役員選任規定 第12条」に従って次の役員が選出されました。

会長：高橋宏幸

常任理事：薄上二郎 河合忠彦 咲川孝 徳永善昭 西尾弘一 平松庸一

古屋紀人

### 3.2. 第6回年次大会の報告

2013年9月21日（土曜）と、22日（日曜）に、新潟大学で第6回年次大会が開催されました。まず、この度、新潟にまでお越し頂いた方々にお礼を申し上げます。また、新潟大会開催までにわたってご支援してきて頂いた方々にお礼を申し上げます。

昨年、立命館大学びわこ・くさつキャンパスにて、本年度、新潟大学での第6回年次大会開催が決定されて以来、同僚の平松庸一先生（大会事務局）とともに、この一年間、開催に当たって準備をしてまいりました。

21日には、五十嵐キャンパスにて、22日には駅南キャンパス・ときめいとで開催されました。大会前日の9月20日（金曜）には、地元企業見学会が開催され、燕市、長岡市の企業に当学会会員6名が参加されました。当学会は、これまで東京都内、そして昨年の滋賀県のびわこ・くさつと、大都市、あるいはその近辺での開催でしたが、この度、地方都市、新潟市での開催がありました。大会の1週間前には、台風が接近し、各地で大荒れでしたが、会員の想いが通じたのか、9月21日、22日、そして企業見学会の20日の3日間とも、快晴の秋晴れに恵まれました。

大会には、合計、85名（非会員のパネリスト2名、新潟大学からの非会員一名のコメントーターを含む）が参加されました。そして、手伝いの新潟大学の学部生、記念講演者2名、参加した会員と一緒にきた友人などを入れると、会場には、100名近くが来場したと思われます。

今回は、大阪大学の関口先生を基調講演者として、英語でのパネルセッションが実施されました。さらに、英語セッションのなかでいくつかの報告がなされました。これらは、当学会での初めての試みでした。その他、従来通り、一般セッション、院生セッションが開催されました。さらに、地元、朝日酒造株式会社からの方々による、記念講演がなされました。これら、すべてを含むと、合計、40報告がなされました。そして、それぞれの報告にコメントーターがついて頂きました。パネルセッションでは、パネリストに加えて、討論者、チェアが参加しました。このような新規な試みをして、多くの報告がなされた新潟大会は、これらの報告者、コメントーター、チェア、討論者、記念講演者、そしてその他、多くの参加者からの貢献、ご支援がなければ、実現していませんでした。大会実行委員長として、これらの人々に心より感謝を申し上げます。

会員総会の後には、懇親会が開催されました。徳永前会長の挨拶、青山学院大学の林先生の乾杯の音頭の後、地酒が振るわれ、地元の料理が出され、会員の間で歓談がなさ、旧交を温めました。

大会実行委員長を担当させて頂き、さらに当学会の今後の課題がみえてきたものがありました。まず、第一に、学会の国際化です。パネリストのRemy先生が懇親会の場でいったように、当学会は、"International" Academy of Strategic Managementの名の通り、「国際」学術団体ですので、もっと国際化する必要があると思われます。今回、

はじめの英語セッション、パネルを実施して、非日本語圏からの研究者、実務家が参加しやすくなつたことが分かりました。それをさらに促進すること必要であると思いました。第二に、国内外からの非会員がもっと多く参加することです。これまで、非会員は口コミを通してのみ学会の開催を知り、参加していました。今後は、当学会 HPなどを通じて学会の開催を案内して、国内からだけでなく、海外からの非会員の参加を増やすことが重要だと思われます。そのためには、学会開催情報、報告の形式内容などを英語にする努力が必要でしょう。

最後になりましたが、当学会のますますの発展、さらに会員の皆様の一層のご健勝、ご活躍を祈念致しております。

第6回全国大会 大会実行委員長 咲川 孝

#### 4. 学会誌の原稿募集(*JSMS*、『戦略経営ジャーナル』)

各ジャーナルの刊行を以下のように予定していますので、会員の皆様から、広く投稿論文を募集いたします。

咲川 孝  
学会編集委員長

##### 1) *JSMS (Journal of Strategic Management Studies)*

###### (1) Vol. 6, No. 2 (2014年7月発行予定) の特集

2014年7月刊行予定の JSMS (Vol. 6, No. 2) では「コトづくりと戦略経営」を特集テーマとし、以下の要領にて論文募集しています。（注：同号には、本テーマ以外の自由投稿論文も掲載されますので、それについては、（3）をご覧ください。）

###### a. テーマ：「コトづくりと戦略経営」

コトあるいはコトづくりは、さまざまな論者によって取り上げられてはいるが、定まった定義はまだ存在していない。本特集では暫定的ではあるが混乱を避けるために、コトを「生活レベルを向上させるために、生活を形成する諸局面（たとえば、衣食住など）の中から一つあるいはそれ以上の構成要素を取り出して、あるいは新しい構成要素を作り出して、それらの要素を新しい視点でもって組み直することで創り上げた行動パターン」とやや広めに定義した上で、理論的あるいは実証的に戦略経営との関わりを捉えるということを特集のテーマとする。

抽象的なコトの定義から具体的なコトづくりを導き出せば、コトづくりとは、生活レベルを向上させるような「生活上意義や意味のある生活価値」の創出を目的に据え、生活を形成する諸局面から一つあるいはそれ以上の構成要素を取り出せる、あるいは新しい要素を作り出せるような「仕組みや仕掛け」を整え、そして新しい視点でもって要素を組み直すことで創り出される行動パターンとしての

「経験やソリューション」を実現化させることになる。要するに、コトづくりには、三つの「づくり」（創造）が含まれる：①生活価値づくり（創造）、②仕組みや仕掛けとしてのビジネスモデルづくり（創造）、③無形の経験やソリューションづくり（創造）である。

以上のことと踏まえ、本特集号では、コトやコトづくりの概念を理論的に探究しより精度の高い概念とするような理論的論文、およびコトづくりと戦略経営の関係を実証的に捉えた論文の投稿を募集いたします。

発展途上の概念であるコトやコトづくりがより精緻化し、同時に戦略経営における新たな論点の一つとなれるよう、多様な観点からの論文が会員の皆様から投稿されることを期待します。

- b. **原稿の言語：**英語。ネイティブチェックを得ていることを条件とする。
- c. **執筆要領：** JSMS の執筆要領に準拠する（参考：「学会活動（5）：学会誌刊行規定と執筆要領」、<http://www.iasm.jp/activity5.html>）。
- d. **締め切り：**
  - ① 査読論文としての掲載を希望しない場合： 2014 年 3 月 31 日（月）
  - ② 査読論文としての掲載を希望する場合： 2014 年 2 月 28 日（金）
- e. **採択基準他：**原稿は、特集号編集委員会が特集号の趣旨に適合し、かつ学術的な水準を担保していると判断された場合、および編集委員会の編集によってそれらの条件をクリアすると判断された場合に採択される。後者の場合の「編集」は、応募者への修正指示の形でなされることがある。なお、採択された応募原稿を「特集論文」としてだけでなく、（通常の査読プロセスを経た）「査読論文」として掲載することも可能であるが、そのためには、上 の特集号編集委員会での編集に加え、（特集号ではない）通常の号における、通常の査読プロセスによる査読によって採択が決定されなくてはならない。（特集号編集委員会とは、特集が組まれる都度、編集委員会から特集テーマに関連する分野の委員を 3 名以内選んで構成する臨時の委員会のことである。ただし、担当する委員の名前は編集の都合上公開しないものとする。）

## （2） Vol. 7, No.1 (2015 年 2 月発行予定) の第 7 会年次大会の特集

本年度の大会・研究発表大会は次の要領で開催予定です（詳細は、本 NEWSLTTTER の 2 をご覧ください）。

- ・ **開催校：**中央大学ビジネススクール（文京区春日）
- ・ **開催日：**2014 年 9 月 13 日（金）、14 日（土）（もしくは 9 月 14 日（土）、15 日（日）、3 月に確定）

・統一テーマ：

“New Global Challenge for the Japanese Businesses

：Burgeoning issues and the new approaches of strategic management”

これに対応して、*SMJ* の Vol.7, No. 1 (2015 年 2 月刊行)では、上記統一テーマに関する特集を組みますので、会員の皆様方からの上記のテーマ、及び関連したテーマに関する論文（査読、非査読）を募集致します。提出期限は次のとおりです。（注：同号には、本テーマ以外の自由投稿論文も掲載されますので、それについては、（3）をご覧ください。）

・非査読論文：2014 年 10 月末日

査読論文：2014 年 11 月末日とします。

・提出先・問合せ先：メールで咲川のアドレスへ ([saki@mot.niigata-u.ac.jp](mailto:saki@mot.niigata-u.ac.jp))。

（注）非査読論文とは、通常の査読プロセスはないということですが、特集号編集委員会による査読はありますのでご注意ください（詳細は、上記の 1）の(1)の「e. 採択基準」をご覧ください。）

[以下、英文による募集要項]

Call for papers

Dear colleagues,

This year's annual meeting will be held in September at Chuo University's Business School, Tokyo.

The planned conference theme is:

“New Global Challenges for the Japanese businesses: Burgeoning issues and the new approaches of strategic management”

More specifically, presenters are encouraged to talk about, for example, the following issues:

- How to develop sustainable global corporate or business strategies
- How to develop sustainable global functional strategies
- How to develop business or functional strategies in penetrating emerging markets

Our English-language journal, Journal of Strategic Management Studies' special issue (Vol.7, No. 1) on the conference theme is scheduled to be released in February 2015. On behalf of the editorial board

members, I announce call for papers on the conference theme from our academy's members. Papers on related topics are also welcome.

Two genres of papers, that is, refereed (査読) and non-refereed (非査読) papers, are called for. Manuscripts that are "not" to be refereed should be submitted at [saki@mot.niigata-u.ac.jp](mailto:saki@mot.niigata-u.ac.jp) no later than October 31st, 2014. Manuscripts that are to be refereed should be submitted at [saki@mot.niigata-u.ac.jp](mailto:saki@mot.niigata-u.ac.jp) no later than November 30th, 2014. Accepted papers will appear on Journal of Strategic Management Studies (Vol.7, No. 1).

For queries about submissions, contact Takashi Sakikawa at [saki@mot.niigata-u.ac.jp](mailto:saki@mot.niigata-u.ac.jp)

Best regards,

Takashi Sakikawa  
Editor of Journal of Strategic Management Studies

### **(3) 特集テーマ以外の JSMS (Journal of Strategic Management Studies) の査読論文(英文)投稿のお願い**

論文は、英文で、30 頁以内を原則とし、他に 200 words 以内の英語要旨および 100 字以内の日本語要旨を添付。ネイティブチェックを経たもの。投稿は電子ファイルにて随時受け付けます。

なお、論文の執筆要領の詳細は学会ホームページの「学会活動（5）：学会誌刊行規定と執筆要領」(URL: <http://www.iasm.jp/activity5.html>) をご参照ください。その他、報告、記事、書評を受け付けます。(報告 10-15 ページ程度、書評 5 ページ以内)

### **2) 『戦略経営ジャーナル』 投稿のお願い**

『戦略経営ジャーナル』(電子ジャーナル)の発刊を下記のように予定していますので、会員の皆さんから、広く投稿論文を募集いたします。

#### **論文の種類：**

日本語による以下の 2 つのタイプ論文等ですが、それ以外に書評などの寄稿も受け付けています。

- A タイプ：下記にあるテーマにかかわる論文
- B タイプ：自由投稿論文、研究ノート

※論文の種類に関する詳細は以下のホームページをご参照ください。

“ <http://www.iasm.jp/activity2.html> ”

**発行スケジュール**：2014年は年間4回の電子ジャーナル発行を予定しています。

**第1回**：2014年3月31日発行（2月28日原稿締切）【担当：井原久光、中村潤】

テーマ「実務的な視点からみた戦略経営」

**第2回**：2014年6月30日発行（5月31日原稿締切）

テーマ「戦略経営のミクロ視点—理論研究と実証的研究—（仮）」

**第3回**：2014年8月31日（発行7月30日原稿締切）

テーマ「戦略経営とマーケティング—マクロとミクロ—（仮）」

**第4回**：2014年10月31日発行（9月30日原稿締切）

テーマ「戦略経営とその理論と実践（仮）」

### **投稿資格**

投稿者は、本学会の会員となっています。ただし、共著の場合には、少なくとも本学会会員1人が含まれ、代表投稿者として編集委員会との連絡等を担当しなくてはならないことになっています。

### **投稿形式：**

投稿原稿はMicrosoft Wordで作成し、電子ファイルで編集委員会に送付してください。  
さらに詳細は投稿規定をご参照ください。

### **送付先：**

“ [saki@mot.niigata-u.ac.jp](mailto:saki@mot.niigata-u.ac.jp) ” （学会誌編集委員長）

### **投稿規定：**

投稿される方は、以下のホームページにある投稿規程を参照して、原稿を作成してください。

“ <http://www.iasm.jp/activity5.html> ”

## 5. 事務局からのお知らせ

### (1) 会費納入のお願い

日頃より学会活動にご尽力いただきありがとうございます。学会活動は会員の皆様の会費がベースです。皆様には、本年度の学会費納入をお願いいたします。

過年度分の学会費が未納の場合には、今後発刊する学会誌が送付されません。また、会費を3年間滞納した場合には会則第8条第4号に基づいて会員資格が失われます。以上をご留意の上、早期の会費納入につきましてご協力をお願いいたします。年会費は正会員8,000円、準会員（学生）5,000円です。指定口座は次のとおりです。

**銀行名：ゆうちょ銀行 口座番号：00120-3-585264**

**口座名義：国際戦略経営研究学会**

なお、会費納入に当たっては必ずフルネームをご記入下さい。特に校費等で振込を行う場合など、大学から学会宛に直接振り込みが行われる際にはご注意下さい。

### (2) 住所等変更の際のご連絡のお願い

所属・ご住所・メールアドレス等を変更された方は、速やかに学会事務局までご連絡

ください。

準会員で入会された方も、学生の身分を離れた場合には正会員になりますので、学会

事務局までお申し出下さい。

### (3) 活気溢れる学会運営のため、お知り合いの方に是非当学会への入会をお勧め下さい。ご不明の点がありましたら、下記学会事務局までお問い合わせください。

#####

**国際戦略経営研究学会（IASM）**

TEL:03-5445-4845 FAX:03-5442-2370

Eメール secretariat:iasm.jp (:の場所に@をお入れください)

#####